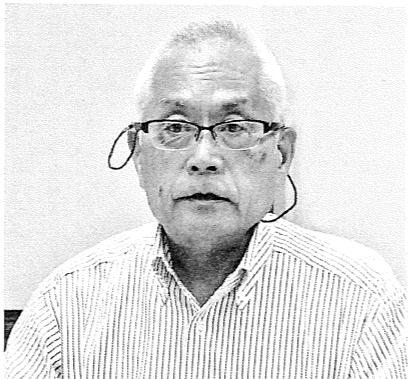


環境新聞紙上シンポジウム

これからの火葬場とマネジメント



喜多村 悅史 氏



横田 勇 氏



三木 求 氏

最初に私が、問題提起を行ったと思います。それはなぜ、「マネジメント」とかいうのです。今、火葬場は大きくなっています。今、そのことを踏まえて、火葬場のあり方を考えなければなりません。

第一に、火葬場の大型化が進んでいます。小さな火葬場がどんどん集約化され、大型の火葬場が都市を中心で増加しています。しかし、火葬場の二つ目は、超高齢化の進展で拡大を続け

ています。最初に私が、問題提起を行ったと思います。それはなぜ、「マネジメント」とかいうのです。今、火葬場は大きくなっています。今、そのことを踏まえて、火葬場のあり方を考えなければなりません。ひと言お話し下さい。

最初に私が、問題提起を行ったと思います。それはなぜ、「マネジメント」とかいうのです。今、火葬場は大きくなっています。今、そのことを踏まえて、火葬場のあり方を考えなければなりません。

第二に、火葬場の運営の問題です。日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

奥村「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

喜多村「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

玉寄「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

八幡「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

横田「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

喜多村「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

パネリスト

三木 求 氏

日本火葬技術管理士会会長

玉寄 将 氏

日本火葬技術管理士会副会長

八幡 正 氏

日本火葬技術管理士会副会長

横田 勇 氏

静岡県立大学名誉教授

喜多村 悅史 氏

東京福祉大学副学長

コーディネーター 奥村 明雄 氏

日本環境斎苑協会理事長

火葬場を取扱う社が急速で、今大きく変わっています。「じつした状況の下、地域連携による社会施設としての火葬場のあり方が問われている。そこで、これまでの火葬場のおかげで、ヨーロッパとの議論が開催してもらつた」。

奥村「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

喜多村「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

玉寄「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

八幡「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

横田「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

喜多村「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

奥村「今から、紙上シンポジウム『これからの火葬場とマネジメント』を始めたいと思います。私は、ヨーロッパを務めます日本環境

斎院協会の奥村でございます。本日は、静岡県立大学名誉教授の横田勇さんと東京福祉大学副学長の喜多村悦史さん、日本火葬技術管理士会から、三木求会長、玉置将氏、八幡正副会長の合わせて5人

のパネリストに参加いたしました。これから火葬場のあり方について、主としてマネジメントの立場から議論を願いしたいと思っています。

火葬場を自治体運営の重要な事項に

高まる火葬技術管理士への期待や役割

喜多村

三木

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村

喜多村

玉寄

八幡

横田

喜多村

奥村



王詩



八幡 正



奥村 明雄

保険の保険料が主財源です。公立学校は国・自治体の公財源(税)が充てますが、私立学校は著者負担で運営します。火葬は、伝統的には地域密着コミュニティの労力提供で行われており、其助の色彩が強いといふよりも考えの整理のヒントとなると思われます。

自治体負當のほか、指定管理者、運営委託、全くの富利法人の運営等、火葬場運営の多様化が見られます。必要なのは国民の葬送感情に即した故人の別れの実感です。そう

対象外とされてきました。が火葬場からも発生しますが、生する集いに火葬と同様な殮灰廻りの発却処理過程で発生する集いに火葬と同様な殮灰廻りの発却処理過程で発生するものであることに鑑み火葬場で発生する殮灰は殮物処理法の処分基準がかからぬといつていいのです。

しかし、最近整備された大都市の大型火葬場の中には、その排気筒出口燃燒が一般燃燒が一般的な火葬場で発生する殮灰は殮物処理法の処分基準がかからぬといつていいのです。

総括火葬管理技術士には幅広い知識の確立に期待 玉寄
遺族と向き合い、地域に密接した施設に 八幡
変わりつつある火葬場、マネジメントが重要な 奥村

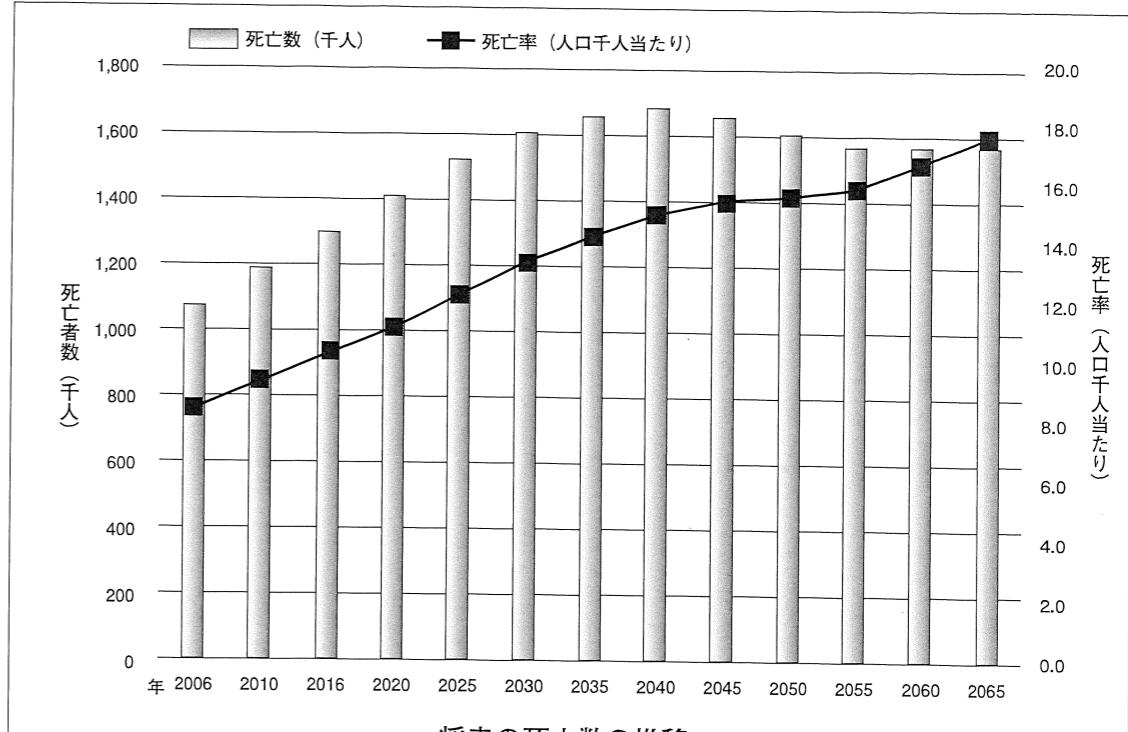
八
番

方法や使用機材の規格設定について、より具体的に踏み込んだ方いドラインが必要を感じています。

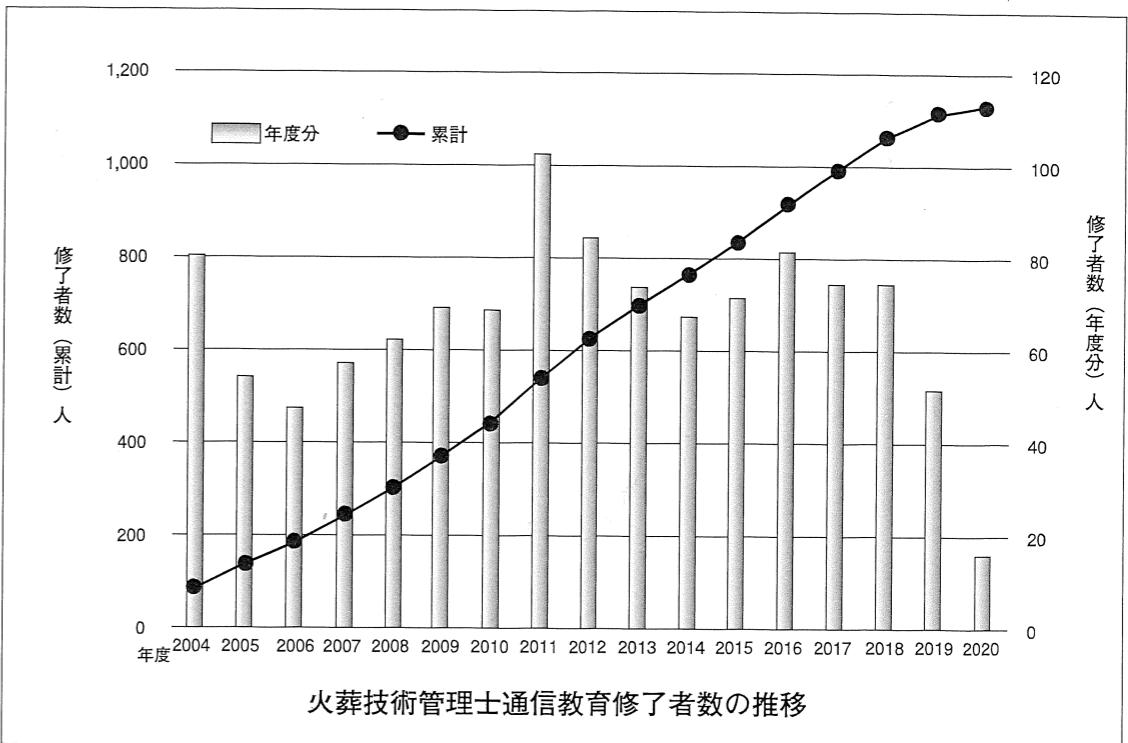
奥村 次に、北海道にお事をされている管理士会副会長の八幡さんをお願いします。

八幡 現場で仕事をしていく一番気になるのは、すべき状況を把握し、対応できようにするということではないでしょうか。例えば、私のところは「台車式の灯で台車が自ら動いても手動スイッチ操作でも動かないトラブルが発生して

等用いていて、機械の不具合等の状況の時、機械の不具合を確認し、人の力を借りて機械を正常に動かすサポートをして、火葬スケジュールを変更して業務をこなせる施設が必要です。そう考ふると、未来の施設は電子制御を中心としたものになると思われます。このように機械の不具合等の不運な事態にならぬために、書類の整理や機械の点検等の手間を省くためには、電子化が最も効率的です。



資料：2006年、2010年、2016年は厚生労働省「人口動態統計」による死亡数（いずれも日本人）。
2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の
死亡中位仮定による推計結果（日本における外国人を含む）



環境新聞紙上シンポジウム

一般社団法人 日本火葬技術管理士会

2003年からスタートした日本では唯一といわれている火葬に関する資格制度「火葬技術管理士通信教育」(主催=NPO法人日本環境斎苑協会)の修了者から、「火葬という業務内容なので、なかなか相談する相手や機会も少なく、修了を機に情報交換や交流を図る場として全国組織を結成したい」という強い要望や、また火葬業務従事者やそれを取り巻く社会的な地位の向上につなげたいという思いから、04年10月に日本火葬技術管理士会を設立しました。

その後任意団体として地道に活動を続けていました

が、設立 10 年の節目を迎えるに際して、任意団体ではなく法人格を取得して地に足を付けた力強い歩みにしようという会員の皆様からの強い熱意で、15 年に一般社団法人として力強く再スタートを切りました。

本会では、毎年 10 月に開催されている「生活と環境全国大会」(主催=日本環境衛生センター、後援=環境省、厚生労働省、開催都道府県、開催市)、日本環境衛生協会とタイアップして「日本火葬フォーラム」を開催し、会員相互の情報交換と交流を深め自己研鑽を図っています。

町村、区、都道府県)に委ね
られています。人生の終末点
において、誰もが必要とする
千人前後の小さな自治体では
火葬施設ですから、自治体の
首長や幹部の皆さんには、学
校や医療・介護施設同様、自
治体運営の重要な事項として火
葬場のあり方を考えたいだ
けでなく、より身近な存在にな
ります。その中で実感するのは、
火葬がより生活に密着したト
ンჭラであるということです。
横田さんをお願いします。

横田 墓地埋葬法(＝環境法)
は適用されませんが、今日地
方自治体が火葬場を整備する
とき、環境上の配慮を無視し
た施設の整備はあり得ませ
ます。電力、交通、通信、上水
道、廃棄物など同様に、社会的
的地位に高い業

北海道はこれから冬に突入
しますが、今回の新型コロナ
ウイルスに関わることでは、
古い施設はストーブを使用し
ていて、エアコンはないと思
いますから、「換気をどうする
か」というのが今後の課題だと想
います。こういう課題も、より
の環境保全が第一歩であると
思います。

者はそれでも知らないがとき
ます。だからこそ、火葬技術
の範囲の役割が求められて考
えています。火葬を勉強し、理解
を深め、火葬業務に生かして
いくことで、火葬場を利用す
る遺族に対して満足のいく
対応ができる人材育成のま
けになります。あと、とても
きっかけに過ぎません。火葬
技術管理士になったからと
いって、それをホールにして
しまった者は、それ以上火葬業
界で、伸びないと思います。
ありません。例えば、運転免
許証のゴールド免許取得者か
何十年もベーパードライバー
であつても、喜多村墓地埋葬法とい
う実体法があり、葬送は自由勝
手ではありません。そして、
法律の運用は基礎自治体（市
町村）が行なうべき事項で、只
を民間のながら、意見やアド
バイスを出し、解決してい
くべきです。次に、三木市
環境上の配慮が第
三位になります。次に、三木市
の火葬場は、地域の歩みの火葬場
であり、共に歩む火葬場にて
て、火葬場新設・増設も必要になつてき
ますが、火葬場建設には長い
時間と努力を要します。しか
ら、火葬場の意見を伺いたいと思
います。まず喜多村さんからお願
いします。

設であり、そのいじしを地方百治体の首長さんともむじ理解をいたくことモレ、環境影響をいたくことモレ、環境影響を生じさせなく適切な管理マネジメントを行へ、地域住民の理解を得ていくことに限ります。そのためにも、火葬場に關する国民的議論を巻き起して、すべきであるとして、火葬場開係者が、技術の向上に努めるといふに、火葬場の問題を広く発言をしていくことが必要なのではないかと思ひます。ありがとうございました。